

編集・広報委員会

本会報の題字は、2号
 まで明治中学・高校同窓
 会々報と称してありまし
 ましたが、3号から明治高等
 学校同窓会々報と改題し
 ました。

明窓会
山崎
昭雄氏

第十六回同窓会総会・会員大会 栄養失調にも勝ちぬき、いまや社
 (親親会) は、来る七月十二日 会の重鎮として活躍し、意気軒昂
 されることのない七月十二日(土)

(土)午後二時より、上野迎え端の世代です。幹事長役の藤木貞夫文化センターで催されることにな。君を中心に、一声かければ、八〇人いました。(詳細は「ご案内」多人は集ま息のあった学生です。

（照）昨年より、一七会の推薦と総会の承認の結果、昭和十八年卒「明窓会」のメンバーが、今度の年の主賓（ホスト学年）になりました。

目下、「吾が青春のリニエラ」ということで、プログラムも応援団体の吹奏楽団の演奏と、バントワラースのフレッシュアップ、フメントを準備しています。

昨年の総会は、二〇〇人を超える盛況で、母校の近代化路線の発展ぶりへの感慨がありました。また戦前戦後の歴史のききみを願うにじませ、肩を抱き合い、暖かい握手に、言葉にならない心の語りあいが会場のおちこちに見られました。

会費は、五〇〇〇円。会員券は前年同様、予約・前金制を導入しています。総会開催日も、前年か

今回ホスト役を務める上段左より三人目が山崎

そして、今年、八〇年代といふ
 ▲限りのなく不透明な時代へに突入
 し、オリンピックボイコットやアフ
 ガン侵略などの国際環境、保守
 乱世の政治、狂乱ともいえるイン
 フレ傾向の中の国内環境と、いやや
 がうえにも自分は、どう生きぬく
 かを問われる時代とはなりましょ
 う。こんな時だからこそ、ひとつつ
 の学舎にめぐりあわせた仲間たちと
 として、時を超え、時を忘れて、
 語りあい、手をさしのべあう、ふ
 れあいの刻(とき)を持つのも意義
 があることではないでしょうか。
 今度、ホスト役を受けもった「コ
 明窓会」は輝煌の雑草のごとく、



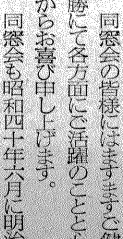
ゲストに明大バトン

今年度、総会のプログラムの中で最も注目されるのは、「明治大かったチアリーダーを考えて」と学芸協団「バントワラズ」の参ること。

男に年は、緑もたつぷり、冷房もよきいた、野池、端文化センター、黄金の間を会場に選びました。五〇〇人は十分入れるゆつたりしたホールです。

さあ、昨年参加された方は、八〇年代という時代の変ったあたらしい心意で、また、久々に参加される方は、友だちを誘いあわせて、このときめきの「君が青春の「ニユアール」パーティにお集りください。ひとり、ひとりが主役です。心を開いて、時を超えて、時を忘れて、語り合おうではあります。

同窓会会長 片岡 龍夫



大学記念館で再充足の第一回創立総会を開いてから、早くも第十六回目の総会を迎えることになりました。今年は七月十日(土)に開催しますので会員の皆様には多数の同期生をお誘い合わせの上で参加下さい。

現在同窓会の行事としては毎年六月に会報の発行、七月に総会と併せて懇親会の開催、その他会員名簿の適時発刊等であります。これまで同窓会として一応の形は整ってききましたが、内容的に見ますと

顧みますと会再発足のそもそも
の端緒は、昭和四年卒（旧十三
回）の同期会「昭四会」の集まり
でした。「自分達の母校に同窓会
がないのは淋しい」との語が出て
そこに居あわせた蒲山、柚木、岩
田、橘の四君が同窓会再建の話し
合いをした時です。そして各年度
の卒業生に呼びかけるため、蒲山
君は自分が在学中活躍した剣道部
のＯＢ会の大沼（昭二）高木（昭
八）佐藤（昭十七）君等の協力を
得ました。また各同期会に連絡を
取り、有志を統合し、学校側から
第一の課題です。

またまた充分でなく、連絡の取れ
ていない同期会も可成あります。
会の運営については昭和五十二
年に会則を改訂し、常務理事の制度
ができてから大いに改善され、機
動的になりました。また同期会の
近は頻繁に行われるようになった
のだ。永年懸案であった旧制と新
制の間の意志の疎通も進み、全体
に活気が出てきました。今年は更
にこれを進めて落ちこぼれた同期
会を皆無にしたいもので、これが
第一の課題です。

は新井先生（昭三十七）が協力されました。当初集まった有志は戦前の卒業生が多く、その数は少なかつたが、熱心に討議が繰り返され、会長には當時汽車製造株式会社の社長の笹山越郎氏（旧四回）を迎えました。会の組織も作り、第一回総会を盛會裡に開催、かくて現在の同窓会が発足したのであります。

次に年会費徴収の件は五十十年の総会で承認され、五十一年から年金を始めましたが、毎年予定の半分に集まっていません。会計担当理事の大場君（昭三十）は大変苦勞されています。年会費は同窓会の存在にかかわるものですから會員各位の一層のご理解とご協力をお願いいたします。これが第二の課題です。

今、当時の方々の涙ぐましい努力を思う時、それを受け継いで力の直面している二つの課題を挙げた私達は会の運営と発展に強い責をみました。

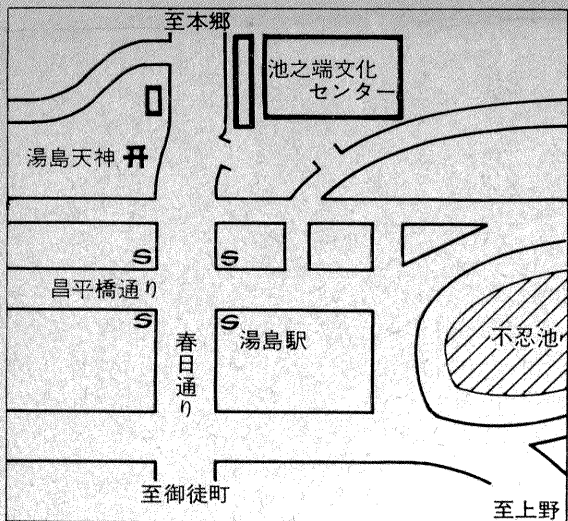
◎ 昭和五十五年度の明治高校同窓会総会・会員大会（懇親会）を左記の通り開催致します。今回は、会場を「上野池之端文化センター・黄金の間」に設定しました。万障お繰り合わせの上、是非ともご出席下さるようお願い致します。

◎ 多数のご参加を期待します。

◎

総会開催のご案内

日時 七月十二日（土）
午後二時より
場所 池之端文化センタ
1
会費 五千円
（前もって、各学生委員より、
会費券を購入して下さい。な
お、当日券もあります。）
明治高校同窓会
会長 片岡龍夫
会員各位



▼旧制明治中学が創立されたのが明治四十五年のことであった。初めは明大キャンパス内に、その学舎が設けられていたが、大正十一年に現在の神田猿樂町男坂下に移転した。それまで、この場所には明大の女子部があり、女子法曹界のパイオニア的存在であった。女子部に男坂はおかしいというイキナばかりか男子校が居を構えたわけだ▼明中高校舎は数度に渡り改築され、現在の近代的な二号館を得るに至っている。そして、思い出深い旧校舎は永久に姿を消して行ったのである。あのモダンな赤レンガの一号館、新築当時（昭和十一年）には都内随一と言われる剣道場などがそれぞれある。その中で、七十余年の明中高の歴史を見守っていたのは男坂であつた▼校門は常に男坂下にあり、学生は時代の別なくこの坂を下りて登校し、上って下校して行つたのである。この七十三の石段を青春の二頁として思い出さぬ同窓生はないことだろう。クラブの練習にこの坂を使つた人も多い。雪の日にはすべて骨を折つた人はいないだろうか。まさか女学生のスカートを下からのぞいていた同窓生はあるまい▼男坂に限らず、学生時代の思い出を語り合うのは楽しいことだ。酒宴であればなおのこと、まずあきること知らない。同窓会の諸氏が、一生懸命活動していただいているのはこうした喜びがあつてこそだろう。▼ただ、ある人の言つていたことを同時に思い出すのである。「学生時代の友人に出会ふ時は嬉しむことは出来ない。お互いの若き日の話題はあきることがない。ただ一時間、二時間と話したあとに、今のこと、将来のお互いのことを語せなければならぬ。もう一人は「昔の友人」になつてしまつているのだ」▼男坂を登つて母校を去つた我々は、また新しい坂をともに登る仲間ではないけれどもならないのだから。

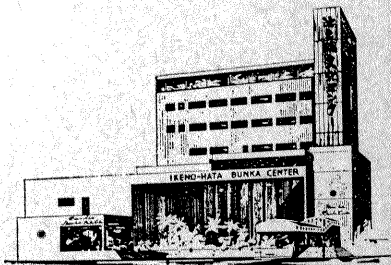
池之端文化センター

「大安吉日」お二人の準備はもうお済みですか？

- ウィークデーに挙式されますと、もれなくハネムーンカメラをプレゼント。
- お二人のうちどちらかのお誕生日に挙式されますと、カップルに高級ペアウォッチをプレゼント致します。

●国電\上野・御徒町 ●地下鉄\千代田線 湯島・銀座線 上野広小路

ご宿泊・ボーリング



TEL 03 (822) 0151 (代)
〒110 台東区池之端1-3

昭和二十三年に新制高校が誕生し、その翌年に、明治高校新聞刊号が発行される。それから現在まで三十余年の間明高生の考え、その状況が書き続けられている。その百五十号に及ぶ新聞を読むことによって、そのころの明高生の姿が浮かんて来るのではないだろうか。同窓会々報の紙面にそれはふさふさしく、諸先輩の「生の声」が、後日つかえることも楽しみだ。

昭和二十三年四月の学制改革に
このような状態の中で当時の明年！

昭和二十三年四月の学制改革により、新制明治高校が誕生する。翌二十四年に「明治高校新聞」の発行が開始されることになり、今日まで三〇余年の歴史をききみ続けている。戦後間もないこの頃の明高生は何を考え、行っていたのであろうか。

このような状態の中での当時の明高生は生き生きと生活している。第三号（二十四年十一月一日）にも、生徒会による第一回の文化祭とは、生徒会に於ける第一次の文化祭とかが開かれたことを書きたてている。第五、六合併号（二十五一年一月一日）の「主張の書き出しは大発想である。」一九五〇年／＼未だ要と

六十年安保當時

結果であつた。畜生虫保有率は「本校においては六〇〜七〇％であるが、一般には普通八四％であり一般より文明的であることが計り知られる」というのである。この衛生状態から当時の社会が計り知れよう。また同号では、「生徒会費の十五円の集り方が悪いので、会計では四苦八苦の有様である。」と報じている。

第三十五号（三十五年一月三十日です）の特集記事は座談会で、テーマは「社会の中の高校生」であつた。この年は六十年安保であり、社会問題にもなっている。T「十年は高校生活が長すぎるね。三年か五年だよ」。しなかかなをやりだすね。内容的には「K「知らな

本音出ぬ新聞

保當時
閨の限界性」(第八十四号三十三
年五月十六日)なで悩む頃であ
る。
第八十五号(三十五年七月四
日)。「政治問題が自分の問題とし
て取り上げられたのはこれが最後
である。自分の問題といつても、
二十年代のそれよりは、はるかに
客観的、人ごとになっている。

社会安定とともに

昭和三十年代に入ると、社会状況は千年代のそれとは比べものにならない程度劣化する。高橋といふ生徒会選挙、予算の決定、文化祭等々が、「主張」やトツプの形体を整える。それまでの週五「記事」に「毎号登場している。あ

争く起らない。……我々は先生方の御意見に反対しろと言っているのではない。正しいと思つたところへ真直ぐぶつかって行けといふのである」。

日制の授業が、昭和三十一年度から六日制へと移行する。二十九年に行なわれた明治大学推薦試験は、廃止され、高校内の成績で入学が認められることになる。とはいえ、現在のように推薦された生徒全員が入学できるわけではない。毎年、数十名の不合格者がでているのである。

二十年代にあらわれた外の関心、つまり政治関心に代表される「長髪問題」についての生徒の声を追ってと呼びかけている。

新聞でも、一般生徒の間でもこの生徒会などへの無気力化は、学力向上策から来ると考えていた。第六十五号（三十三年三月十一日）のトップ記事は「明大進学不合格者の四十九名出ず」であった。この数字は推薦者総数のほぼ三分の一にあたり、その後学校を上げて学力向上に取り組み、その中には「クラブ数二十に整理、校

三気力は、今日の高校で言われるものとは比へものにならない。朝礼が形式的で無意味だといふので、廃止運動を行なつて、とうとう全廃させてしまつたりする。(第九号三十四年七月三日)、また同じ年に高校生長の長髪が認められる。第八十号(三十四年十月十日)の学力低下のアンケートで、その原因のトップは「授業中うるさいから」で七・一%。その理由は「教師の教え方が悪いから」六五・五%を上げてゐる。記者もこの結果に疑いを持つてゐるようだが、その頃のふつとぶつと明高生の横顔が浮んで来る。第三日、「明高生は、銀座が大好き」と題して、余暇活動についてアンケートを行なつてゐる。この傾向は、四十年代になつてより強くなる。かたい記事は「生徒会活動の活発化」「服装問題」ではないけな「読まれる新聞を作らねば」と、やわらかい「遊」の記事を書く。百三十三号(四十六年十月八日)の四面トップは、当時の深夜放送D・J落合恵子インタビューである。高校の中に、新聞の中に、学生の誰もか興味を持つ話題がなくなつてゐるのである。何をどう考えようかある一七八%。生徒会活動への参加態度(第九百二十八号四十五年三月二十日)。三無主義一二%、参加しなければならぬとき参加一四八%、積極的に参加一三%。第九百三十号(四十六年三月二十日)深夜放送を聞く一三五%、マンガを読む一七八%、雑誌をかう五四%、オートバイ免許有一五三%。現在年三回発行される明高新聞編集者たちは、自分たちにとって新聞は何なのかを考えてゐる。新聞の中に、高校生の本音が出ない五十年代なのである。

昭和二年第十一回卒

明士会

事務所〒113文京区千駄木三―六―二
電話(八二二)〇七五三

昭和二年第十一回卒

榊石芝サービス

代表者 黒田秀雄

〒105港区新橋二―一―一
電話(五〇三)六二七一(代)

昭和二十七年卒
吉岡齒材株式会社
代表取締役
吉岡輝明
〒114千代田区外神田六―十一
電話(八三一)三二八四(代)

昭和二十八年卒・明窓会代表
熊木會計事務所
公認會計士
熊木貞夫
〒113文京区湯島一―九―十
電話(八二六)〇六九一―

始まる」第七十三号（三十三年六月七日）などの向上策が続く。そのパイオニア的存在が、ベトナム戦争への関心（第百十

である。しかし効果は簡単に上が

（月三十日）なごが含まれていたの

本音出ぬ新聞

共通話題なく

は 高校生であつたらこんな話し方は
しなかつただろう。政治が人ごと

は「大人はたろんでゐる、軍備よる。」
客観的、人ごとになっている。

「いいです」。T「自ら進んで知ろう
聞の限界性」(第八十四号三十三
とではない」。この記事の見出し
年五月十六日)などを悩む頃であ
二十年代のそれよりは、はるかに

六十一年安永三時

六十一年安永當時

に悩む新聞

めなエネルギーは、天野文部大臣

大発言、静粛違反者は退館を強
序々に国民の政治的関心を薄らげ
閩班と生徒会の共同声明がある。
「我々は我々の活動及び結果につ

七月一日)の二面トップの見し出で学校当局より発行停止処分を受^ます。」「
は「第二回協議会、図書班長重^いているのである。この様な傾向は 第八十六号(十月七日)には新

にとりあげた記事が、学校教育に竹早生「ええ、安保が阻止される多大なる悪影響を及ぼすとの理由まで」記者「御健斗をお祈り致します」とができる。第三号（二十五年

「このころの特色として、何ごとる。他校の『学校新聞の政治問題』（これからも運動を続けますか）の「主張」はこう論じている。インタビュである。「記者」

明くる
十七年一月二十八日）などがある。第三号（二十八年三月二

測される憲法改正」(二五号 二で本文がないのである。一面の記

も安定し、その関心が政治へと向
の経緯を書いた前文と「教授会

報の紙面にそれはふさふさとも楽しみだ。

その内容は同年九月九日に調印された日露印条約後の日本と、カ羅獲、我が故も愛業放棄といつて、そのころの明高

に所信を聞きに行くまでになる。
【第三号、二十六年九月十七日】
旦のトップ記事はこうした高橋
生の涵みを表わしている。「宋曾

Downloaded from <http://ajphaphysiol.physiology.org/> at University of California, San Diego on September 11, 2012

熊木貞夫

五十四年度七夕総会 熱気の中、無事開催

三上外喜男氏



昭和五十四年度、第十五回同窓会総会・同窓親会は七月七日の七夕総会となった。近年全学同窓会への参加者が次第に減少するのを残念に思ふ声が高まっていたが、出席人物の人間味や、それらの重なり合いが、今後の学友の中心になって総会・親会に盛り上げに努力して欲しいという話や、昭和五十四年度は我々同窓会(明中)第十六回昭和十七年三月卒業)がホスト役(主幹)として働くことになった。会員券を発行してかなり意識的に会員の動員をはかり、三百名程に会員を呼び寄せ、三時過ぎから会場を体育館に移し、総会、引き続き懇親会に入

石川元校長去る

元校長石川一郎先生(国語科)が、昨年五月をもって、定年退職された。先生は、昭和二十一年一月、本校に就任されて以来、三十四年間にわたって、本校で教鞭を執られ、酒井先生と並んで、最も在任期間の長い先生であつた。先生は総務主任他要職を歴任された後、昭和五十二年四月、杉並区浜田山三二〇一〇

年会費の周知徹底を

会計・大場隆之氏

ご承知の通り、「年会費徴収」の選出等を含めて、また、協力をもち、各卒業生の学年委員が徴収し一括して納めていた。申すまでもなく、年会費は、毎年、学年委員諸兄の同窓会発展のための基金であり、お手をわすれずしてあります。し、田舎な会運営には不可欠なもので、一部は、学年委員が、各位におかれまして

記

- 一、納入期限 毎年一月末日
- 一、納入先 富士銀行本店
- 普通預金二〇一八七三三三
- 明治高等学校同窓会会計
- 大場隆之

- 一、金額 旧制卒 一万円
- 新制卒 一万五千円
- (ご寄付は、難く頂戴いたし明確に記録の上で報告申し上げます)

- 一、問合先 会計 大場隆之 八六一七〇五二
- 小林昭雄 八五一〇二六二

同窓会とともに

飛躍の七十周年を

清水義汎校長



本校も、明後年は創立七〇周年を迎えることとなります。ご承知の如く創立当時より、日本における私学の確立としての自覚をもって今日に至っており、その間、多数の人材を世に送り出してきました。戦後の学制改革により、「明治中学」から「明治大学付属明治高等学校・明治中学校」と名称変更を行なうと同時に、大学付属としての一貫教育の確立に重きを置くことになりました。そのため戦前と比較すると、他大学に進学する生徒が少なく、そのほとんどが明治大学に進学するようになりました。そうした中で、大学付属としてのマンネリ的なイメージが出てきたことも否定できません。

私は着任以来、こうしたイメージを早急に是正し、公教育の場としての本校の在り方と、明治大学付属としての本校の在り方の二つに整合性をもたせた発展に心を注いでまいりました。その手がかりとして、生徒に活力、大きな希望を、そして、将来のリーダー

手続も中学の場合は九八%という高率の結果が出ました。合格して入学してくる生徒達も心から明治に入学したいという態度が有り有りとしてきました。

また、在校生に対しては外部ファストを導入して「井の中の蛙」にならぬよう、また、教師の指導が社会的基準のなかで誤りのないよう努めてまいりました。勿論、こうした努力が教育の場では短期間に結実するものとは考

兄だけで実現するものではありません。校友諸氏と母校に対する支援が例え精神的なものに限定されていても、その強弱が大きく影響するものと考えます。我が国における早稲大の場合においても、欧米における有名校の場合にもそれは証明されています。本学の同窓会が母校に対する熱意と同窓諸氏の結束の強さは他校に対して負けないものがあると思

最後、同窓会の益々の発展と、皆様方のご健康を心からお祈り致します。

明治高校同窓会 昭和54年度会計報告

昭和55年3月31日現在

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,396,748	第15回総会経費	1,002,900
第15回総会費	1,136,000	会報経費	158,050
「」広告代	380,000	事務・印刷費	121,810
54年度分年会費	95,000	通会信費	338,590
55年度分年会費	150,000	通会議費	426,125
54年度卒業生入会金	518,000	通会公費	119,910
雑収	171,859	雑次年度繰越金	32,110
合計	3,847,607	合計	1,648,112

いたれば幸甚です。年会費納入についての詳細は左記のごとくです。

なお、昭和五十四年度決算ならびに昭和五十五年予算は、別掲の通りです。ご参照ください。(会計についてお問い合わせは、大場 八六一七〇五一までお願いいたします)

明治高校同窓会 昭和55年度予算

(自) 昭和55年4月1日 (至) 昭和56年3月31日

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,648,112	総会経費	1,000,000
新卒生入会金	500,000	会報経費	200,000
新年度会費	400,000	名簿経費	2,500,000
総会費	1,000,000	事務・印刷費	150,000
会報広告代	400,000	通会信費	500,000
名簿広告代	2,000,000	通会議費	300,000
		公用費	150,000
		公予備費	148,112
		基金積立	1,000,000
合計	5,948,112	合計	5,948,112

前記の通り報告いたします。

昭和五十五年三月三十一日

監査の結果相違ありません。

監査 同 会長 小片岡 隆之

昭和二十八年卒・明窓会事務局長
株式会社振天堂トケイ店
専務 戸田 一郎
取締役 千田代田区神田小川町三十一
電話(二九一)四一五五

昭和二十八年卒・明窓会
君塚美明法律事務所
弁護士 君塚 美明
〒105港区西新橋三十一番五十八
電話(四三七)五七三二(代)

昭和二十八年卒・明窓会
フナコシ薬品株式会社
代表取締役 船越 靖弘
本社 千田代田区神田駿河台二二三
電話(二九三)三三三三(大代)

株式会社 FUNE "インテラ舟"
本店 千田代田区神田駿河台二二三
電話(二九四)二一八九
昭和二十八年卒・明窓会
代表取締役 船越 靖弘
総務部長 藤井 弘

株式会社 フナイ
営業所 千田江東区三好二一三
電話(六四二)六二〇八(代)
昭和二十八年卒・明窓会
代表取締役 船越 靖弘
総務部長 思藏 邦治

昭和二十八年卒・明窓会
鈴木産業(株)(箔押・シルク印刷)
代表取締役 鈴木 武臣
取締役 千田墨田区立花六六一四二五
電話(六二七)六六六六

昭和二十八年卒・明窓会
日栄精工
代表者 青木 登
〒117墨田区要町三十三
電話(九五七)二二二六

昭和二十八年卒・明窓会
磯有志朗
代表者 磯 有志朗
〒114台東区蔵前二一五十四条五
電話(八六四)〇二七五

一部で減、二部で増

明大推薦合格者

一月四日、五十四年度明治高等学校の進路が発表された。卒業生は二百五十九名で、明大への推薦者は二百四十一名、その全員が入学を認められた。他大学への進学者は、名、専修、各種学校への進学者は、名、就職五名、その他(浪人など)九名である。

明治進学者の中で、一部へ進学する者、百十八名、一部へは、十三名である。一、部の各学部別をみると、法学部五十五名、商学部四十九名、政経学部三十四名、経営学部四十名、文学部十六名、工学部十四名、農学部十名であった。二、部進学者の内訳は、法学部五名、商学部三名、政経学部十四名、文学部二名である。(経営、工、農学部には一部がない。)

この五年間の推移をみると、明治進学者の合計は、五十四年度の二百六十六名以後は、二百四十名前後の横ばいであるが、一部進学者だけを見ると、五十二年の激減(マ

最近5年間の中学・高校入試状況

年度		51	52	53	54	55
		募集人員	150	150	150	150
中学校	受験者数	1,010	1,165	1,354	568	632
	入学者数	172	170	160	179	170
	倍率	6.7	7.8	9.0	3.8	4.2
高等学校	募集人員	130	130	50	100	100
	受験者数	759	1,001	359	318	393
	入学者数	78	82	67	79	115
	倍率	5.8	7.7	7.2	3.2	3.9

入試・進路から 明中高の状況を探る

着実な人気の伸び

昭和五十五年度の中学入試は、少ない。これは、五十年の明治二年に行なわれた。例年と同じ百五十名の募集人員に対して、昨年より六十四名多い受験者があつた。昨年は、四・二倍の競争率であつた。昨年度から、入試日を他私立校と同じ一月一日に替へ、本日の明治入学者が二百二十六名と多し、その大部分が明治へ進学してきた。昨年は、四・二倍の競争率であつた。昨年度から、入試日を他私立校と同じ一月一日に替へ、本日の明治入学者が二百二十六名と多し、その大部分が明治へ進学してきた。昨年は、四・二倍の競争率であつた。昨年度から、入試日を他私立校と同じ一月一日に替へ、本日の明治入学者が二百二十六名と多し、その大部分が明治へ進学してきた。

最近5年間の明高卒業生の進路

年度		50	51	52	53	54
明治大学一部	法 学 部	52	55	55	53	55
	商 学 部	52	52	52	52	49
	政 治 経 済 学 部	41	42	41	41	34
	経 営 学 部	40	40	38	40	40
	文 学 部	13	14	15	12	16
	工 学 部	39	20	14	10	14
	農 学 部	30	9	12	12	10
	合 計	267	232	227	220	218
明大二部合計		1	11	6	17	23
明大推薦者合計		268	243	233	237	241
他 大 学		3	4	2	2	2
専修・各種学校		0	0	5	1	2
就 職		2	3	3	0	5
そ の 他		5	10	4	0	9
卒 業 生 合 計		278	260	247	240	259

教育費毎年高く

明治高校・中学の受験料、入学分であり、総額で五十三万五千円となり大変な金額である。これは、前年度に比べて、一・五倍に増加している。四十九年度から、今年度は、二・五倍に増加している。四十九年度から、今年度は、二・五倍に増加している。四十九年度から、今年度は、二・五倍に増加している。

会報短信

●明治七会(大正十一年第七回)年名簿が発行されており、御希望の方は、毎月一回「味の会」を開いている。去る四月八日に、花見を兼ね、埼玉県長瀬へ夫人も含め十七人が旅行した。「味の会」は、通常東京で行なっているが、この長瀬旅行は、明治時代の旅行にちなんだものである。この会は、すでに百三十回に及んでいる。

●明治七会(昭和二十六年第三〇七九)の同会会報は、昨年七月七日(回)は、年次総会を、昨年十一月十一日、銀座アスター新館で開催した。十五日が参加し、斎藤剛先生(豊島区教育委員)の中国の話を聞いた。また、同会では一生を教育関係に奉仕した、斎藤剛先生(豊島区教育委員)の中国の話を聞いた。また、同会では一生を教育関係に奉仕した、斎藤剛先生(豊島区教育委員)の中国の話を聞いた。

新名簿作成

総会向け急ピッチ

昭和四十五年発行の明治高等学校同窓会名簿第一号から、十年を経過した今年、第三号の新名簿が発行される事になっている。今回の新名簿の作成は、昭和四十五年発行の明治高等学校同窓会名簿第一号から、十年を経過した今年、第三号の新名簿が発行される事になっている。今回の新名簿の作成は、昭和四十五年発行の明治高等学校同窓会名簿第一号から、十年を経過した今年、第三号の新名簿が発行される事になっている。

編集後記

今回の会報作成スタッフ、前回の十年を振り返りました。フレッシュな感覚で、会報のイメージアップを思ったのです。しかしながら、老練のメンバーには、自ら体験しておきたい。それに、読まれる諸先輩のお年にも合わせ、形式やページ数は、旧版のB5版に近づけたつもりです。若輩の不慣れは、お詫言ひいたします。ご二六年から五十五年までの卒業生が、読まれる諸先輩のお年にも合わせ、形式やページ数は、旧版のB5版に近づけたつもりです。若輩の不慣れは、お詫言ひいたします。

YMCA レストラン

結婚披露宴、クラス会、各種会合等にも御利用下さい。

〒101千代田区神田美土代町7
TEL 292-7241~3

キャプテン クラーク

ビーフステーキ スチュー専門店

〒101千代田区神田神保町1-25
TEL 291-1668

中富商事株式会社
中富額隆・小林正雄

昭和二十八年卒・明窓会

代表者 椎名 明

〒136江東区北砂一丁目十一番五
電話(六四五)九五四一

昭和二十八年卒・明窓会

代表者 大木 嘉明

〒136江東区南砂一丁目七番九
電話(六四五)三〇四五

昭和二十八年卒・明窓会

代表者 真田 勝弘

〒101千代田区神田須田町二丁目二
電話(二三三)六五五一

昭和二十八年卒・明窓会

代表者 篠崎 健一

〒101千代田区神田須田町二丁目二
電話(二三三)六五五一

昭和二十八年卒・明窓会

代表者 安田 昭一

〒120足立区中川二丁目二七番二
電話(六〇五)〇二七二

昭和二十八年卒・明窓会

代表者 大崎 浩一

〒273船橋市本町二丁目二二番一
電話(四七四)三三〇八